

平成23年度 研究指定校実践事例 土合中学校

1 研究主題

「ICT機器を活用した授業の充実」

～情報活用能力の向上をめざして～

これからの時代の「生きる力」には、情報活用能力が不可欠である。情報活用能力を育成するために上記主題を設定した。

(1) 研究の進め方

～情報活用能力の向上をめざして～課題達成のため、以下のように研究を進めていく。

1. 基礎学力の定着を目指す。

基礎学力の土台があるからこそ、多種多様な情報を吟味し、真偽を判断することができる。そのための手段として、各教科・領域の学習指導において、ICT機器を積極的に活用し、視覚に訴え、生徒の学習に対する関心意欲を高める。

2. 情報端末から得た情報を、判断して活用できる能力を育てる。

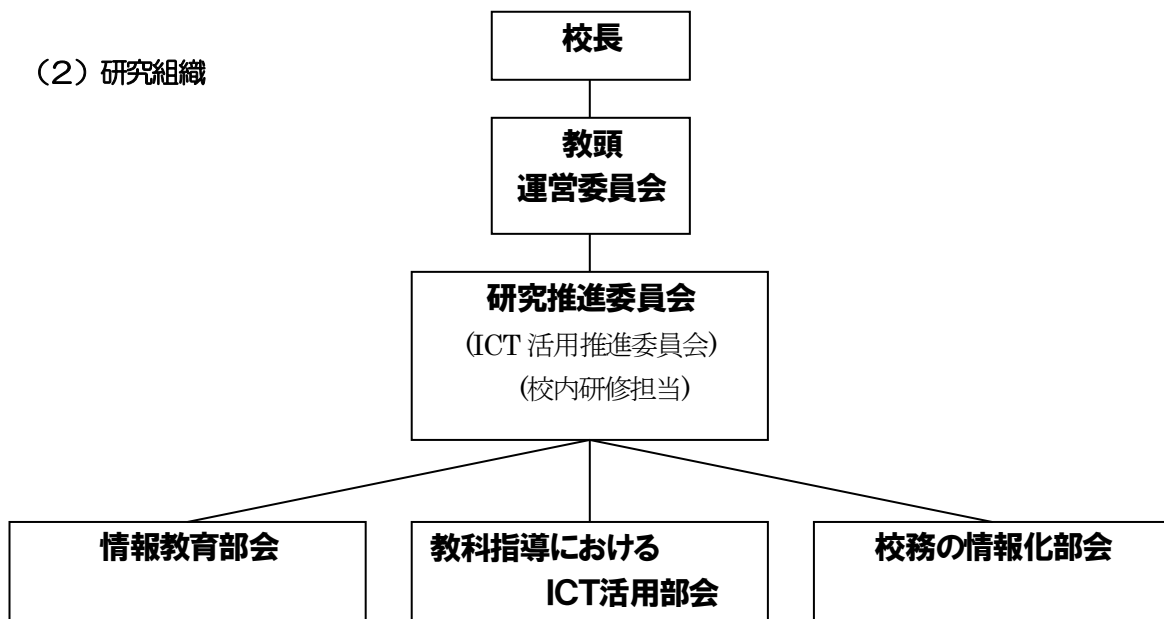
情報端末の発展や社会全体への普及が目覚ましい現在、生徒の身の回りには膨大な情報が溢れている。どの情報が正しいものなのか判断する能力が十分身に付いていない。そこで、生徒が得た情報を自分で判断し、活用することができる能力の育成を目指す。

3. 教職員の仕事環境の改善に努める。

校務用コンピュータの本格的導入により、教員もICT機器を日常的に使うようになった。これを機に、校務を効率化し、生徒に関わることができる時間を増やし、さらに教員の情報活用能力も高める。

以上の三点を重点課題とし、ICT機器を活用した授業を展開することによって課題解決に向けて取り組む。

(2) 研究組織



2 部会・計画内容

(1) 部会内容

①**情報教育部会**…情報社会で適切な活動を行うための基となる考え方と態度の育成。

(情報モラル教育=情報社会に参画する態度の育成)

②**教科指導におけるICT活用部会**

…各教科などの目標を達成するための効果的なICT機器の活用。

③**校務の情報化部会**

…学校事務の仕事の効率化を図る。

(教員の事務負担軽減と子どもと向き合う時間の確保)

(2) 研究計画

【平成23年度】

- ・ICT機器活用研修会
(校内LAN対応ノートコンピュータ・プロジェクタ・電子黒板・ワイヤレスペンタブレット
・問題作成データベース)
- ・校務用コンピュータを用いた成績処理について校内研修
- ・ICT機器活用をした授業等の実施とそれに伴う実践事例の作成
- ・研究推進体制の構築の計画と準備
- ・1年次のまとめと検証

【平成24年度】

- ・研究推進体制の構築
- ・各ブロック研究会(研究内容検討、研究計画の作成、研究準備、研究結果検証 など)
- ・研究発表
- ・2カ年の総括

(3) 教科指導等のICT活用の実践例

【2年生 英語】「英作文を書けるようにするために」

デジタル教科書と実物投影機を使って英作文を作る指導

【課外活動(部活動)】「技を確認し、技のキレを良くする(柔道部)」

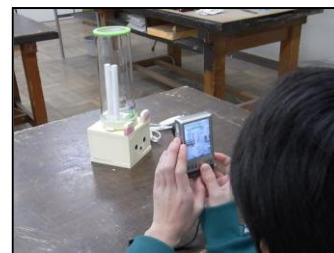
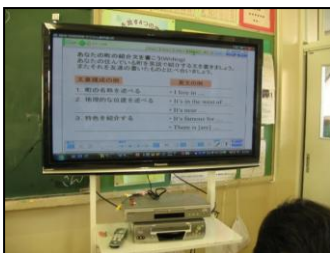
ビデオカメラとプラズマディスプレイを活用した技の実践

【2年生 技術分野】「オリジナル蛍光灯スタンドをつくろう」

校内LANを活用した、作品発表用資料の制作指導

【1年生 技術分野】中学校「木材加工の基礎を身につけよう」

視聴覚機器を活用した、工具の使用方の指導



【1年生 社会】「仲間の取り組みを共有化するために」

他のクラスの演技を共有し内容の充実を図るロールプレイングの指導

【3年生 数学】「円周角の定理を利用した問題演習」

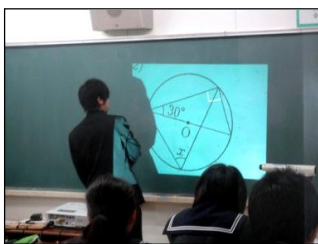
投影機を活用した、生徒の考え方を説明しやすくする指導

【2年生 保健体育】「現代的なリズムのダンス」

デジタル機器を活用した、仲間の作品を共有し、自己の学習の成果を確認させる指導の工夫

【3年生 理科】「星の1日の動きをわかりやすくするために」

デジタル教材とプロジェクタを用いた指導

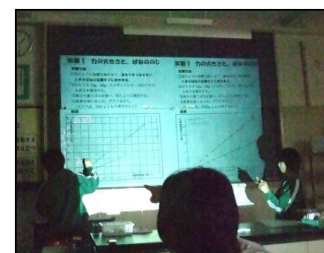


【1年生 理科】「力の大きさと、ばねののび（見やすいグラフをかくために）」

実物投影機とプロジェクタを用いたグラフの書き方指導

【3年生 理科】「月の観察、月の自転と公転」

コンピュータと大型テレビを用いた月の観察の指導



3 成果と課題

(1) 研究の成果

・ICT機器活用研修会

苦手意識をもつ職員は現段階でも多い。そこで実物投影機、電子黒板の使い方をICT推進委員が中心となって研修を行った。プロジェクタと実物投影機の稼働率はとても高くなった。実践された先生方から、今後の課題が明確になった。

・ICT機器を活用した授業の実施と実践事例集の作成

今年度はICT推進委員が一人一事例を作成した。各推進委員がICT機器を、どの場面でのような使い方をするのが効果的かを考え、実践することでICT推進委員自身の意識とスキルが高まった。

実際に使用することで、環境面での不都合や、課題を発見できた。

・研究推進体制の構築

学校職員全体で研究に取り組むことを念頭に、研究部会を情報の教育化の3領域をもとにつくることを計画し、情報の教育化概略の校内研修をはじめ、各部会の研究内容が誰にでもわかる資料の作成を行った。資料を簡素化し、機械等を苦手とする先生にも理解してもらえるものを各部会チーフが作成し、スムーズな組織構築ができた。

・校務環境の整備

本校は、ICT機器をコンピュータ準備室で一括して管理を行ってきた。コンピュータ準備室が4階にあること、準備室のカギが共用のもの一本であることなどから、ICT機器使用を諦め

ることが多く積極的に活用されていたとは言い難い状況であった。今回、ICT機器活用を推進するにあたり、環境整備が初期の課題としてあがった。校内LAN用機器の職員室配備を学校の実情を兼ねて検討し、今年度は試験的に3台のみの職員室配備を行った。

・校務用コンピュータを用いた全学年成績処理の一元化

本校では平成21年度より、通知表作成ソフトで通知表作成を行っている。各教科担任や学級担任が専用USBに成績等を入力し、各学年通知表担当が通知表作成ソフトにデータをコピーして通知表を印刷するというものであった。

平成22年度の校務用コンピュータ導入により、成績の共有化が進み、通知表、要録などの作成効率が上がった。

・情報モラル研修

生徒の情報活用能力を育成するために、「情報モラル教育」は不可欠である。その情報モラルを教えるスキルを身につけるために、「情報モラル研修」を行った。著作権や個人情報の取り扱いなど、研修から学ぶことができた。

(2) 来年度に向けて

今年度は、主に教職員のスキルアップと、授業でのICT機器活用のための準備に時間を充ててきた。そのなかで、学校職員全体で研究に取り組む組織の構築はできたが、ICT機器を活用した授業実践で不十分な面があった。課題として、2つ挙げることができた。

- 1 ICT機器の保管、管理などの環境が十分整っていなかった。
- 2 コンピュータ操作を苦手と感じている教職員が多かった。

「教育の情報化」を進めていくには、コンピュータを容易に活用できるシステムを構築し、教職員のスキルの向上が必要である。来年度は、更なるICT機器の活用実践、環境整備に取り組んで行く。